

金沢大学がん進展制御研究所－復旦大学上海がんセンター ジョイントシンポジウムの開催について

2018年9月4日

平成30年9月4日、復旦大学上海がんセンター（中国）において、第8回ジョイントシンポジウムを開催しました。シンポジウムに先立ち、復旦大学上海がんセンター副院長 Dingwei Ye教授、金沢大学がん進展制御研究所 平尾敦所長から開会の挨拶があり、その後、鈴木健之教授（がん研）、後藤典子教授（がん研）、島上哲朗特任教授(WHO-CC)、土原一哉トランスレーショナルリサーチ推進部長(国立がん研究センター)を含め8名の講演者から、最新のがん研究に関する研究成果・研究活動について発表がありました。シンポジウムでは、基礎研究から臨床研究までがんに関する幅広い話題が提供され、参加した約100人の研究者、学生と活発な議論が交わされました。また、シンポジウムの金沢側オーガナイザーとして、Dominic Voon准教授が全体の進行役を務め、終始、和やかであり、且つ、真剣な意見交換の場となり、大変有意義な機会となりました。

今回の訪問では、シンポジウムとは別に、中国の名門医学部として知られる復旦大学上海医学院において、若手研究者として活躍著しいFa-Xing Yu教授の研究室を訪問し、最近の中国の医学研究の動向について説明を受けました。さらに、シンポジウムの翌日には、10名程度の上海がんセンターの若手研究者との交流会が催され、今後の国際交流や若手研究者育成事業を進める上で、貴重な意見を伺うことができました。

